

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

sk2021096

s2021052

神機構-1079

③ 施設名等

名称：	強羅暁の星園
施設長氏名：	梶田 寛人
定員：	50名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	

【施設の概要】

開設年月日	1945/10/28
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人唐池学園
職員数 常勤職員：	24名
職員数 非常勤職員：	6名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数：	11名
有資格職員の名称（イ）	幼稚園教諭
上記有資格職員の人数：	11名
有資格職員の名称（ウ）	社会福祉士、看護師
上記有資格職員の人数：	各1名
有資格職員の名称（エ）	社会福祉主事
上記有資格職員の人数：	6名
有資格職員の名称（オ）	家庭支援専門相談員
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（カ）	里親支援専門相談員、自立支援担当職員、個別対応職員
上記有資格職員の人数：	各1名
施設設備の概要（ア）居室数：	混成寮、男子寮、女子寮
施設設備の概要（イ）設備等：	遊戯室、会議室、図書室、自立訓練室
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④ 理念・基本方針

<基本理念>

日々の生活の中で児童の一人の人間としての権利を守り、児童が互いにその人格を尊重しあいながら将来の自立に向けて生活することができるよう、またひとりの社会人として成長するように養育・支援する。

<養護の目標>

- ・ 誠実…自分の行動と言葉に責任を持つ子
- ・ 勤勉…毎日の生活のなかで、忍耐を持って行動する子
- ・ 愛徳…自分自身、まわりの人やものに温かい思いやりをもって大切にすること

⑤ 施設の特徴的な取組

○自然に囲まれた環境の中、子どもたちはのびのびと生活を送っている。「遊び、スポーツ、学びを充実させる取り組み」を行い、小学生から公文式学習に取り組んでいる。中学生は、公文式学習や通信のゼミを受けている。環境上近隣に塾がないため、町が主催する「土曜塾」を利用し、子どもたちが通っている。現在、大学進学を目指している高校生が数人いる。男子の野球、女子のソフトボールなど、県大会での優勝や毎日登校前のサッカーの練習など、職員と一緒にいき、運動面でも活発に活動している。職員は子どもたちとの会話や触れ合いを大切に、子どもたちも落ち着いて生活を送っている。

○毎月、全職員が「人権擁護のためのセルフチェック」に取り組んでいる。子どもに対する声掛けはどうか、大声を出さなかったかなどの項目に対して、反省点を記入して課題を明確にしている。セルフチェックの結果は集計し、次の支援に活かしている。子どもへの不適切な関わりを防止するため、チームアプローチ（複数の職員対応）を実施し、トラブルが発生しそうなきは、一人で対応せず、必ず複数の職員で対応して、子どもの話をじっくり聴く体制を整えている。毎日の朝礼や職員会議の場で、職員の言葉遣いについて職員間でお互いに注意し合っている。

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日） 2022/8/1

評価実施期間（イ）評価結果確定日	2023/2/24
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和元年度（和暦）

⑦総評

○戦後まもなく設立された歴史のある園で、中舎制の特徴や職員のチームワークの良さを活かし、職員全体で子どもたちの養育・支援の質の向上に取り組んでいる。子どもたちは男子寮、女子寮、混成寮に分かれて生活している。子どもたちの居室は個室ではないが、家具の配置を職員が工夫して、プライバシーの保護に努めている。

○令和3年7月より新しい園長となり、就任に際して法人との契約によりコンサルタントが関わり、園長とともに園の経営課題の改善に取り組んでいる。令和10年度の建て替え完成を目指し、中長期目標に向けた経営課題を「人事制度設計」として明確化している。「経営理念」「基本方針（理念の実現に向けて）」「行動指針（職員に求める行動）」「人事指針（人材への考え）」「ビジョン（10年後の組織）」「中長期戦略（事業計画）」「人材像」の見直しと整備を図っている。建て替えを視野に入れながら、大規模修繕にも取り組んでいる。

○子どもの入所時に、子どもの状況や背景、親子関係などの状況を職員会議で共有し、子ども一人ひとりの状態を把握している。その中で、子どもとの信頼関係を築きながら、その子どもの気持ちを常に気にかけて、イライラしている時などは、早めに何が気になっていて、今どんな気持ちなのかを職員はじっくりと聴き、課題と思われることを一緒に考えている。子どもたちと接している中で、何がやりたい、何が食べたい、どこへ行きたいなど、直接聴く機会を作り、できるだけ子どもたちの望むことは実現できるよう努力している。

○園の生活に慣れ、心も落ち着いてくると、退園後に向けたリービングケアを日常生活の中で行っている。小学生は、食事の際に食材を知り、食事の栄養から自分の健康を知り、食後の片づけを行えるようにしている。中学生になると、自分の衣類の洗濯や金銭管理ができるようにしている。高校生は自分で進路を決めるなど、日常生活の中でリービングケアを行っている。卒園が近付くと、巣立ちセミナーなどで社会的知識を学び、一人暮らしの体験を園内の訓練室で行っている。

○毎日の生活の中で、基本的な生活習慣を身に付けることができるよう支援している。食事のマナーや後片付け、部屋の片付け、洗濯など、担当職員が生活の中でその子どもに合った支援を行っている。農業体験を行ったり、自衛隊の訓練を見せてもらったり、一流ホテルから招待を受けたりなど、地域との触れ合いも多く、その中で社会規範や常識を学んでいる。町の陸上の専門の指導者が陸上の練習会を開催してくれたり、地域の行事に子どもたちが積極的に参加している。

○食事は業者に委託しているが、朝昼夜の献立には子どもたちのリクエストを反映している。小さい子どもは、特に寝かしつけの時間を大切に、オルゴールを掛けたり、本の読み聞かせをしたり、添い寝をして、安心して入眠するまで職員が付き添っている。子どもたち一人ひとりに常に声掛けして、「気にしているよ」「見ているよ」という気持ちを伝え、安心できるように配慮している。子どもたちのリーダー会では、毎月、子どもの声を聴き、希望を実現できるよう支援している。

○「あけのほし会」として卒園生の会があり、毎年、卒園生と退職職員との集いを行っている。「望む子は一生支援する」ことを目標に、元職員や関係機関と、密に連携を取っている。自主支援事業にて、18歳以上の子どもの支援も行っている。

○家庭支援専門相談員と児童相談所のケースワーカーを中心に、家庭復帰が可能かどうかを慎重に進め、ケース会議で検討している。保護者には面会に来てもらい、買い物外出、家への外出、家への宿泊、園での子どもとの暮らし体験などの段階を経て、家庭引き取りにつなげている。その間、職員は子どもの心理状態や態度などを観察しながら支援している。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

公益社団法人神奈川県介護福祉士会による第三者評価は平成25年度の初回受審からこの度で4回目となりました。調査員の皆様から、10年以上に渡り当施設の「これまで」と「現在」を客観的、専門的視点で評価を頂いております。職員へのヒアリング調査では、初任職員～中堅職員を対象とし、施設全体としての具体的な取り組みと変化を重点に実施しました。過去の受審結果は、受審のない自己評価年度に職員間で振り返りのため大変貴重な情報として活用しております。今年度も誠にありがとうございました。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○

理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。

○

【コメント】

毎年、3月末に、新採用職員も参加する養護計画会議を開催して、養護計画を作成している。養護計画には、基本理念や養護目標を明文化して、職員に周知を図っている。また、ホームページやパンフレットに基本理念を掲載するとともに、園長室や会議室にも掲示している。新採用職員に対しては、採用前に園長が職員の自宅を訪問して、理念や園の取り組みなどを説明している。保護者には、入所前見学や保護者会開催時に理念を説明しているが、コロナ禍で開催できないため、現在は年2回発行する園報「暁の星」に活動内容の報告とともに伝えている。子どもたちには、月1回の防災訓練の際の全体集会で、話をするようにしている。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○

【コメント】

園の経営状況については、園長と事務職がコンサルタントや会計士の助言を受けて、把握と分析を行っている。令和3年7月より新しい園長となり、就任に際して法人との契約によりコンサルタントが関わっている。コンサルタントは週1回訪れている。職員全員に面接し、園長とともに園の経営課題の改善に取り組んでいる。地域の情報は、小中学校のPTAの集まりなどで把握するとともに、町の「子育て支援計画」の取り組みに参加して、「町に貢献できる施設づくり」を目指し、子育て支援事業の「子育て支援講座」の講師を職員が担うなど、地域の状況の把握に努めている。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

園長とコンサルタントが「経営課題全般や建て替え計画」について、毎週会議を行い、改善に向けた計画や実施内容を、毎月の職員会議の場で進捗状況として職員に報告している。「修繕」「建て替え計画」「コスト削減」「ソフト見直し」「業務効率化(デジタル化)」「人事評価システムの導入」などの課題に対して、今年度より具体的な取り組みを始めている。また、人を評価するにあたっては、職員の行動指針の整理が必要であり、園の基本理念についても同様なため、見直しの取り組みを進めている。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○

<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

中・長期計画として細かい書面は作成していないが、令和10年度の建て替え完成を目指すとともに、中長期目標に向けた経営課題を「人事制度設計」として明確化している。経営課題については、「強羅暁の星園の経営課題・概要」図で示している。「人事制度設計」として、「経営理念」「基本方針（理念の実現に向けて）」「行動指針（職員に求める行動）」「人事指針（人材への考え）」「ビジョン（10年後の組織）」「中長期戦略（事業計画）」「人材像」の見直しと整備を図っている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画（事業計画と収支予算）に、中・長期計画（中・長期の事業計画と中・長期の収支計画）の内容が反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

課題改善に向けた年間スケジュールを策定し、年度初めの職員会議の場で職員に周知している。また、進捗状況なども、職員会議で園長から職員に報告している。職員の長期定着に向け、職員の働き方を見直すため、「3つの目標」を掲げて取り組んでいる。「休憩時間を100%確保」「事務作業を業務時間内に100%実施」「1つの会議を30分以内で実施」の3つの目標に対し、シフトの見直しや記録のデジタル化を進めている。園舎の大規模修繕についても、建て替えを視野に入れながら、今年度具体的に進めている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知（会議や研修会における説明等）されており、理解を促すための取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

コンサルタントとの個人面談で職員のニーズ（シフト関連、住環境、研修プランの見直しなど）を集約し、今年度の事業計画に反映している。事業計画は法人全体で冊子にまとめている。また、事業計画とは別に、子どもたちの養育・支援に向けた役割や担当をまとめた養護計画を作成して、職員に説明、配布している。全体の手順について、職員会議で園長や主任が職員に説明している。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知（配布、掲示、説明等）されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

コロナ禍で保護者会の開催が難しいため、保護者には園報「暁の星」で、取り組みの状況を伝えている。保護者の面会がある子どもと、面会がない子どもが極端に分かれることから、家庭からのプレゼント品の額や持ち帰り品について方針を決め、ホームページに記載する他、保護者に文書を送付して協力を依頼している。子どもたちには、毎月の防災訓練で全員が遊戯室に集まるので、計画の内容や建て替えの話、部屋のクロス貼り替えなどを園長が説明している。月1回、部屋の代表の子どもが集まる「リーダー会」があり、園からのお願いや子どもたちの声を聴く他、計画についても説明している。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

毎月、職員が「人権チェックリスト」に取り組み、職員会議で、職員のチームアプローチの対応（複数対応）を想定したロールプレイを行っている。子どもとの対応で職員が疲弊することがあるため、日々の対応で難しかった場面を取り上げ、ロールプレイを通し意見交換を行っている。また、月1回、副主任以上が参加する運営会議でも、複数対応について話し合い、結果を職員会議につなげている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

子どもへの対応で難しい場面があった時の、チームアプローチについてルールを決めている。他の職員が「大丈夫？」と声を掛けると、ほとんどの職員が「大丈夫です」と答える傾向がある。職員間で話し合い、フォローが必要と思った時は気軽にサインで示すようにしている。具体的には、問題がない時には、親指だけを立て、フォローを希望する時は親指と小指を立てるようにしている。各寮の部署会議や職員会議の場で職員が話し合い、「大丈夫？」の声掛けは使わないことを決めている。日常生活場面での課題は、その都度報告して検討している。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【コメント】

園長の役割と責任については、毎年作成する養護計画の「業務分掌」に明記している。また、重大な事故や災害などが発生した際の緊急連絡先や、苦情解決の責任者は園長であることも明記している。園長不在時の権限は、内容によって看護師や主任に委譲することを決めている。職員会議では、冒頭に「園長からの話」の時間を取り、取り組みの状況などを伝えている。現在、会議の時間短縮を進めていることから、話の時間が長くないよう配慮している。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

ハラスメントやコンプライアンスの外部研修に園長が参加して、遵守すべき法令などの理解に努めている。コンサルタントと密に連携を取り、国や県の方針や動向を把握し、職員会議で職員に周知を図っている。運営会議や職員会議の他、部署会議にも園長が出席して、子どもたちへの支援について、職員にアドバイスを行っている。園長室のドアは開放し、常時、子どもたちが訪れ、学校の報告をしたり、一緒に遊んだり、相談をしたりしている。野球大会やマラソン大会などの行事にも、園長が必ず参加している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="checkbox"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

毎朝の朝礼や、部署会議、職員会議に園長が出席して、運営や経営についての現状と今後の方針などの説明を行っている。児童処遇に関連する会議には必ず出席している。各寮にも足を運び、子どもたちの様子を確認し、子どもたち全員の行動記録、養護日誌も確認している。また、月1回、「子どもの最善の利益」を目的に運営会議を開催している。記録類は、キントーンシステムを活用し、パソコンで管理している。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

経営改善や実効性のある業務に向け、コンサルタントと毎週、会議を行っている。「人事制度設計」として、「経営理念」「基本方針（理念の実現に向けて）」「行動指針（職員に求める行動）」「人事指針（人材への考え）」「ビジョン（10年後の組織）」「中長期戦略（事業計画）」「人材像」の見直しと整備を図っている。今年度中に、「理念」と「基本方針」を運営会議で検討し、次年度以降に適用していくこととしている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職（有資格の職員）の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設（法人）として、効果的な福祉人材確保（採用活動等）を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> (社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○
【コメント】		
職員の採用は、法人内の各事業所が担当し、園長を中心として面接などを行っている。新職員の採用にあたっては、学校関係や福祉就職フェアなども活用している。実習生を受け入れている学校が15校あり、学校への講義に出講することもあるため、学校から学生のボランティアの紹介を受けることもある。年度末には人員体制や組織表の見直しを行い、効率的、効果的な人事管理に努めている。具体的な計画に基づいて、人材確保と人材配置を進めており、現在、人員難などで困っていることは発生していない。		
②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準（採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準）が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○
【コメント】		
「人事評価制度の導入」に向け、同一法人内の他事業所の人事基準などを参考にしながら、現在、強羅暁の星園の人事基準を作成しているところである。期待する職員像は文書などでは示していないが、朝礼や各会議の場で、言葉遣いや挨拶など、子どもたちの手本となる職員であってほしいこと、当たり前のことを当たり前前に教える職員になってほしいことなどを、園長から職員に伝えている。職員の目標管理制度については、取り入れていない。		
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	

<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

勤務時間（早上がり、原則連休、遅出勤）の見直しや、職員寮のWiFi設置などを行い、働きやすい環境作りを進めている。3年前から看護師を常勤で雇用し、精神科勤務の実績があることから、職員のメンタルヘルス・ケアにも関わっている。職員の心身の健康状態を把握して、助言などを行っている。子どもたちの通院も、看護師が職員と一緒にやっている。また、週1回、職員のメンタルヘルス・ケアのため、臨床心理士が訪れ、職員の個別面接や職員研修を行っている。先月も、中堅職員を対象に、アサーションの研修を開催している。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

① 17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

期待する職員像は、園として示していないため、現在、作成中である。新任職員には、入職直後と年度末の年2回、園長との個人面談を実施している。また、先輩の職員と一緒に子どもの部屋に入り、対応をフォローしている。何かあれば、副主任や指導員が相談にのる体制を整えている。年1~2回、法人全体で入職1~2年目の職員を対象に宿泊研修を実施している。宿泊研修には、園長や研修担当が参加して、園の取り組みの内容を説明したり、新任職員の疑問に答えている。

② 18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

研修目的や研修体制が曖昧であるため、コンサルタントの助言を受け、研修プログラムを、ビジネススキルと専門スキルに分け、並行して受講できる体制を整え、次年度より本格始動する予定である。職員の勤務表は副主任が作成していることから、園外研修への参加者は、主任と相談しながら副主任が決めている。本人の希望により、社会福祉士やCSP（コモンセンスペアレンティング：子どもの問題行動を予防する教育法）の指導者資格取得のための費用は園が負担して、専門スキルの向上に努めている。園長と職員の個人面談は、9月頃、意向調査を含め、全職員を対象に行っている。

③ 19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	
<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="radio"/>
(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	<input type="radio"/>

【コメント】

全国児童養護問題研究会、県児童福祉施設職員研究会、県児童相談所、民間団体などの外部研修や、法人内研修を含めると約30件の研修参加の機会がある。職員が必ず年1回は外部研修に参加できるよう、参加者の調整を行っている。コロナ禍でオンラインによる研修が多いことから、タブレット端末を購入したり、WIFIの環境を整えている。また、次年度より、ビジネススキルの向上を目的に「オンデマンド研修システム」を本格導入し、職員が必要な研修を受講できるようにしていく予定である。NPO法人「チャイボラ（社会的養護関係の支援団体）」に登録し、オンラインで、同法人主催の専門研修を受講している。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

① 20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

副主任とフリーの職員を窓口として、実習生の受け入れを行っている。事前にオリエンテーションを実施し、実習期間中に子どもとの関係変化を捉えることができるよう、実習終了まで同じユニットで実習できるよう配慮している。現在、保育の学校を中心に、年間15校30人の受け入れを行っているが、次年度は10~11校に、受け入れを減らす予定である。実習期間中に、園長と里親支援専門相談員が個別研修を実施して、「現場の現状」を説明している。また、定期的に実習日誌指導要綱などの見直しを行い、実習環境の改善に努めている。実習生の受け入れは、職員に負担もあるが、教えることの勉強にもなるため、今後も引き続き継続していく予定である。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	<input type="radio"/>

【コメント】

インターネット担当の職員4名で、ホームページのブログを随時更新して、子どもの様子やイベント、コロナ関連の情報などを、積極的に外部に発信し、運営の透明性を確保している。園報「暁の星」は、保育園や学校、関係機関、支援団体や個人に広く配布している。他市町村の民生委員・児童委員の見学も積極的に受け入れ、園の活動の様子や役割を伝えるよう努めている。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
---------------------------------------	---

<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

事務や経理、取引などに関するルールや担当者は、「職務分掌」に定めて、職員に周知している。公正かつ透明性の高い運営を進めるため、週1回、コンサルタントのアドバイスや指導を受ける他、会計士に一部を業務委託している。会計士は月1回程度、園を訪れて状況を確認している。県指導監査の結果や指摘事項については、各担当者が職員会議などで発表し、改善に努めている。現在、重大な指摘事項は受けていない。また、法人の顧問弁護士などに相談できる体制もある。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

地域行事の参加や地域に根差した園を目指し、年間を通して地域の活動に取り組んでいる。コロナ禍の中、取りやめになった行事もあるが、少年野球チームへの所属や、子供会、自治会運動会、町主催のスポーツイベントや祭典、自治会の防災訓練、地域住民が指導者の陸上練習などに、子どもたちと職員が積極的に参加している。地域では子供会が解散するなど、子どもの減少が顕著な状況にある。

② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

主任と里親支援専門相談員を窓口にして、ボランティアの受け入れを行っている。コロナ禍の影響で休みの時もあるが、美容師による髪カット(2団体通年)や音楽短大による演奏会、画家による似顔絵作成、陸上練習指導、学習指導、農作業体験、地域ホテルのイベントなど、多くのボランティアの方が活動している。また、園長が講師として教員対象の研修会に出向くなど、学校教育にも協力して、小中学校との連携に努めている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○

<input type="checkbox"/>	関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="radio"/>

【コメント】

児童相談所や学校とは、年1回、連絡会を開催する他、自立支援計画の作成などで随時連携している。その他、地域の団体やアフターケア団体とも、日頃から連携し、現状を共有している。子どもたちが地域のコンビニエンスストアやホテルでアルバイトをしていることから、地域の商店やホテルとの関係作りにも努めている。最寄り駅の箱根登山鉄道の職員からも、駅での子どもの気になる様子を連絡してくれることがある。月1回、地域のホテが誕生日の子どもをランチに招待し、テーブルマナーを学ぶ機会を提供してくれている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
<input type="checkbox"/>	施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	<input type="radio"/>
(社会的養護共通)	<input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
(5種別共通)	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	

【コメント】

現在、地域住民に対して相談事業は実施していないが、町の子育て支援事業の子育て支援講座を担当している。地域では子どもの人数が著しく減少しているが、仕事の関係から夜間子どもをどこかに預けたいとの声や、ひとり親家庭の母親が体調を崩した時のショートステイの利用希望などがあがっている。地域の福祉ニーズの把握に今後も取り組んでいく必要があると捉えている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
<input type="checkbox"/>	把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
<input type="checkbox"/>	多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【コメント】

地域への貢献を、法人及び園で掲げ、町の子育て支援事業の子育て支援講座を、職員が担当している。また、町社会福祉協議会主催の施設説明会にも、積極的に参加している。園長が地域の学校の教員を対象に「児童発達など」についての講師を担っている。また、自治体の防災無線機を園内に設置していることから、有事の際は、スピーカーの内容が聞きづらいこともあるので、地域住民に放送内容などを正確に伝えることとしている。災害の発生に備えて、園内に、子どもたち用と地域住民用の備蓄品を備えた防災倉庫を設置している。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果	
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員採用時に、子どもの人権擁護について説明し、書面を配布している。また、入職3ヶ月以内に、法人全体の新任職員研修を行っている。人権についての研修会は、毎年、全職員を対象にして開催し、周知を図っている。法人の基本理念や基本方針は、園長室と会議室に掲示している。子どもたちは、会議室には入室できないが、園長室のドアは開放しているため、常時、園長室に出入りしている。

②	29 子どもプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
<input type="checkbox"/>	子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちの個人情報に関する書類は、会議室内に保管している。子どもたちの小遣いやアルバイト代なども、会議室で管理している。子どもたちの居室は、完全個室化されていないため、仕切りやタンスなどを用いて、プライバシーを確保するよう配慮している。鍵の掛かるロッカーも設置している。入浴は子どもたちの年齢により時間を決めているが、中学生以上の子どもは、一人での入浴ができるよう配慮している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
<input type="checkbox"/>	理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

パンフレットや広報誌、ホームページでのブログにて、情報を提供している。パンフレットやホームページでは、園内や子どもの生活の様子、日課など、イラストや写真を使用して理解しやすいよう工夫している。保護者には、原則入所前に見学に来てもらい、運営体制の説明を行うとともに、保護者の要望や不安について聴き取りを行い、園での具体的な生活を丁寧に説明している。予防接種やワクチン接種についての説明と同意、物品やプレゼントなどの扱いについて、定期的に見直しを行っている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="radio"/>

意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。

【コメント】

入所時には、児童相談所のケースワーカーより、「子どもの権利ノート」について、子どもたちにわかりやすく説明している。児童相談所と協働し、保護者や子ども本人を含めた話し合いの機会をできるだけ作るよう努めている。養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者の自己決定を尊重している。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちの退園後も、継続して支援している。子どもの退園時には、今後の相談方法や相談窓口について説明している。年数回、「あけのほし会」のイベントを開催し、大文字焼きなどのタイミンに合わせて卒園生に連絡している。また、退職した職員にも声掛けしている。職員には、「支援は本人が望む限り一生涯」という考えが強く根付いている。混成寮の幼い子どもが家庭に戻った時は、家庭訪問をこまめに行っている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

毎月、各部屋の代表が集まる「リーダー会」を開催し、子どもたちの主張や意見、要望を聴いている。内容は職員会議で周知し、ルールの見直しや改善につなげている。年1回、子どもの担当者2名が一人ひとりと面接して、「生活の質の向上など」についてヒアリングを行っている。子どもたちの声のうち、バスケットボールの購入など、余暇設備に関するものは、できるだけすぐに対応するようにしている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

苦情受付担当者や苦情解決責任者、第三者委員を置き、苦情解決の体制を整えている。年度初めには子どもたち全員に対して、苦情受付担当者から、「苦情」や「対処方法」など苦情解決の仕組みについて、説明する機会を設けている。また、園内に投書箱を設置している。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

園長や事務員が在室している時間帯は、園長室や事務室のドアは開放して、子どもたちがいつでも訪れ「喋りやすい空間」を作るようにしている。子どもの希望を聴き、個室での相談も行っている。担当者に相談する以外に、子どもたちには自由に相談者を選ぶことができることを伝えている。また、園内に投書箱を設置している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

毎日の朝礼の場で、各寮の引継ぎと共有を全職員が徹底し、子どもからの相談や意見に対して、ユニットで解決できる内容かどうか、また、どう対応するかを、検討する体制を整えている。子どもから相談があった時は、担当者間で解決策を検討し、子どもや職員に速やかに説明する機会を設けている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもへの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

リスクマネジメントに関する委員会は置いていないが、毎月の部署会議にて、園内で実際に起きた「ヒヤリハット」を取り上げ、職員に周知している。また、事故が発生した時は、県に提出する「事故報告書」をもとにして、事故の発生の原因や、再発防止策などを検討し、職員に内容の共有と周知を徹底している。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

感染症の対応マニュアルを整え、園長と看護師を中心に、コロナ対策などを行っている。コロナ対策マニュアル(熱発時対処の判断基準等)を策定し、職員会議で周知する他、ビジネスチャットツールで発信し、タイムリーに職員に情報を伝えている。毎朝、職員による園内の消毒や除菌(ドアノブ、サッシ、電話機、電灯スイッチなど)、職員のマスク着用などを行っている。コロナの感染が疑われる子どもが確認された場合は、蔓延防止のため、他の子どもとの飲食はしないなどの予防策を講じている。また万一来に備え、各部屋に隔離して対応している。子どもたちにストレスがたまらないよう、ゲームの使用時間を決めるなどの配慮を行っている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="radio"/>

【コメント】

災害に備えた計画を養護計画に示し、毎月、避難訓練を実施している。立地条件から土砂災害や噴火を想定した訓練を行い、各部屋のリーダーが防火管理者に避難人数を報告している。年1回、消防署立ち合いのもと、園内に設置しているホースを使用して、職員が放水訓練を行っている。避難訓練後は、防火管理者が子どもたちに、地域の防災に関する話題を話している。子どもたちの部屋には、ヘルメットを備え、災害時にはパディ(2人組)で避難するよう訓練している。栄養士が非常食のリストを作成し、60名×3日分の非常食を事務室に保管している。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>

【コメント】

毎年、養護計画を作成し、養育支援のあり方や子どもの尊重、権利擁護などを文書化し、全職員に配布している。園長より内容を説明し、職員全員が共通の理解を持つよう取り組んでいる。毎日の朝礼での伝達や、職員が各自所有する携帯電話のチャットワークなどで報告し、職員が速やかに情報を共有するよう取り組んでいる。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちの自立支援計画は、本人の意向を確認し、園の主任や担当者、専門職員、児童相談所のケースワーカーや心理司が参加して作成している。自立支援計画は、原則、子どもの思いを中心に作成している。自立支援計画は、子どもたちそれぞれの目標を立て、年2回、上半期と下半期に見直しを行っている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

園長を策定の責任者として、子どもたちの自立支援計画を策定している。自立支援計画は、子どもと話し合い、短期目標(6ヶ月以内)に向けての支援内容や方法、中長期目標(6ヶ月～2年)に向けての支援内容や方法を明確にしている。支援困難(暴力行為など)ケースについては、保護者や児童相談所、学校、自治体などの機関とカンファレンスを開催し、適切な養育について話し合いを行っている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	<input type="radio"/>

【コメント】

自立支援計画書は、短期目標(6ヶ月以内)と中長期目標(6ヶ月～2年)について、目標に向けた取り組みと支援内容を記載している。支援の経過は養護日誌に担当職員が記録し、計画に基づく養育に努めている。短期目標は達成状況に合わせて、次のステップの目標につなげている。また、子どもたちの変化やトラブルなどは、児童相談所と連携を取って対応している。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

クラウド型サービス(チャットワーク、キントーン)を導入し、職員が携帯電話で入力、確認ができるよう改善して、情報の共有を徹底している。記録については、何を記録するか、どう記録するかなど、記載内容などの基準の整備を進めているところである。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
<input type="checkbox"/>	個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	記録管理の責任者が設置されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="radio"/>

【コメント】

個人情報の管理は主任を担当者として、毎月、情報の漏えいがないか確認し、管理を徹底している。全職員に配布している養護計画に、個人情報の保護について記載し、職員に周知している。また、職員の採用時には、退職しても守秘義務があることを説明している。

内容評価基準 (24項目)

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果	
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
<input type="checkbox"/>	子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの権利擁護については、マニュアルや規程を整備している。法人全体で、子どもの権利擁護の研修を行っていたが、コロナ禍により現在は開催していない。以前、次の活動に移るため、子どもの手を無理に引っ張ってしまったことがあり、そのことをきっかけに、関係が難しい時には必ず複数の職員で対応することを決めている。自立支援担当職員を中心に「複数対応マニュアル」を作成している。マニュアルは、部署会議でグループディスカッションを行い、ロールプレイをする中で検討して作成している。マニュアルを作成したことで、子どもの権利擁護に対する職員の意識は高まっている。子どもの泣き声が聞こえたり、誰かの大声が聞こえたりした時には、複数の職員がその場に行き、子どもの話を聞いて解決するようにしている。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもは入所時に、児童相談所のケースワーカーから「子どもの権利ノート」を手渡され、説明を受けている。年少の子どもは権利ノートを職員が預かり、大きい子どもは自分で保管している。年1回、園長が権利ノートを使い、子どもの年齢に応じて、権利についての説明を行っている。日常生活の中で、何でも言っていんだよ、相手の気持ちは？など、自分の権利や相手の権利について、職員が話をすることが多い。子どもたちには、立地上塾が近くにないため、職員による公文式学習を行ったり、町の協力で土曜塾を開催したりして、学習の機会を設けるよう工夫している。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

自分はなぜここにいるのか、子どもが質問してきた時には、児童相談所のケースワーカーに相談しながら、本人に話をするようにしている。児童相談所のケースワーカーと一緒に説明する場合もある。知りたいと思っているが、知ることが怖いと思っている子どもは、本人の思いを汲み取り、再度、職員に聞いてきた時に話をするようにしている。年齢やその子どもの思いにより、伝える時期はまちまちである。園に入所してからは、日常や行事などの様々な写真をアルバムに残し、職員と一緒に園での生活を振り返り、たくさんの人に大切にされていることを感じてもらっている。保護者の行方不明などのケースを優先し、「ライフストーリーワーク」を、家族や児童相談所のケースワーカー、園の職員の三者で打ち合わせて実施している。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

毎月、全職員が「人権擁護のためのセルフチェック」に取り組んでいる。子どもに対する声掛けはどうか、大声を出さなかったかなどの項目に対して、反省点を記入して課題を明確にしている。セルフチェックの結果は集計し、園長や職員に報告して次の支援に活かしている。子どもへの不適切な関わりを防止するため、チームアプローチ（複数の職員対応）を実施し、トラブルが発生しそうなときは、一人に対応せず、必ず複数の職員で対応して、子どもの話をじっくり聴く体制を整えている。毎日の朝礼や職員会議の場で、職員の言葉遣いについて職員間でお互いに注意し合っている。子どもとの距離が近くなり、友だち感覚の言葉にならないよう気を付けている。

(5) 支援の継続性とアフターケア

① A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

一時保護所からの入所依頼は、児童相談所から本人の状況や、家庭の状況の説明を受け、本人に面接して、本人の好きなことや好きな玩具、好きな食べ物などを確認している。どの部屋にするかなど職員間で検討し、喜んでもらえるような日用品を取りそろえて迎え入れている。入所当日は、好きな食べ物を「ウェルカムメニュー」として用意して、楽しんでもらえるよう工夫して迎え入れている。乳児院からの入所の場合は、乳児院での生活を確認し、継続できるようにして迎え入れている。子どもたちは乳児院への里帰り訪問や、クリスマス会などに招かれている。「あけのほし会」として卒園生の会があり、毎年、卒園生と退職職員との集いを行っている。「望む子は一生支援する」ことを目標に、元職員や関係機関と、密に連携を取っている。自主支援事業にて、18歳以上の子どもの支援も行っている。

② A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。	○
<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

園の生活に慣れ、心も落ち着いてくると、退園後に向けたリービングケアを日常生活の中で行っている。小学生は、食事の際に食材を知り、食事の栄養から自分の健康を知り、食後の片づけを行えるようにしている。中学生になると、自分の衣類の洗濯や金銭管理ができるようにしている。高校生は自分で進路を決めるなど、日常生活の中でリービングケアを行っている。卒園が近付くと、巣立ちセミナーなどで社会的知識を学んでいる。卒園まじかには、一人暮らしの体験を園内の訓練室で行っている。卒園後も、様々な困りごとへの対応を行って支援している。卒園生の「あけのほし会」では、近況報告を行い、バーベキューなどを楽しんでいる。卒園生からも子どもたちの支援がしたい、大学の学園祭に招待したいなどの声があり、支援の輪が広がっている。

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	

【コメント】

子どもの入所時に、子どもの状況や背景、親子関係などの状況を職員会議で共有し、子ども一人ひとりの状態を把握している。その中で、子どもとの信頼関係を築きながら、その子どもの気持ちを常に気かけ、イライラしている時などは、早めに何が気になっていて、今どんな気持ちなのかを職員はじっくりと聴き、課題と思われることを一緒に考えている。アンケートは義務的にやるものではないと考えているので、子どもたちと接している中で、何がやりたい、何が食べたい、どこへ行きたいなど、直接聴く機会を作り、できるだけ子どもたちの望むことは実現できるよう努力している。子どもたちは、希望や要望を直接、口頭で職員に訴えてくることが多い。

②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○	

【コメント】

食事は業者に委託しているが、朝昼夜の献立には子どもたちのリクエストを反映している。中・高校生は弁当持参者が多く、朝早くから朝食や弁当作りをしてくれ、子どもたちは食事を楽しみにしている。小さい子どもは、特に寝かしつけの時間を大切にしており、オルゴールを掛けたり、本の読み聞かせをしたり、添い寝をして、安心して入眠するまで職員が付き添っている。排泄に関しては、夜尿の子どももおり、失敗した時には清潔に寝られるよう支援している。子どもたち一人ひとりに常に声掛けして、「気にしているよ」「見ているよ」という気持ちを伝え、子どもたちが安心できるよう配慮している。リーダー会では、毎月、子どもの声を聴き、外出などの希望を実現できるよう支援している。

③	A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○

【コメント】

学校の持ち物の準備や宿題など、忘れ物がないか声をかけ、子どもたちが困り感に気付くように働きかけ、見守っている。年少の子どもたちに、自分でやりたいという態度が見えた時には、やり方を教え、体験させて見守っている。時には失敗を繰り返すこともあるが、できるようになった時には一緒に喜び合っている。高校への進学などを希望する子どもについては、本人の意思決定を尊重し、自立支援担当職員や主任と話し合い、進路を決定している。話し合いの中で、アドバイスをする時も、きちんと理由を伝えるようにしている。

④	A10 発達の状態に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状態、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

「遊び、スポーツ、学びを充実させる取り組み」を行っている。職員が公文式の指導員資格を取り、小学生から公文式学習を行っている。以前は学習室で行っていたが、コロナ感染防止のため密を避け、現在では分散して各寮のリビングで行っている。中学生では、公文式学習や通信のゼミを受けている子どもが2人いる。環境上近隣に塾がないため、町が主催する「土曜塾」を利用し、子どもたちが通っている。現在、大学進学を目指している高校生が数人いる。男子の野球、女子のソフトボールなど、県大会での優勝や毎日登校前のサッカーの練習など、職員が一緒に行い、運動面でも活発に活動している。子どもたちが地域の行事に参加し、先日は「どんど焼き」を楽しんでいる。地域のホテルから招待があるなど、地域との関わりも深い。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

毎日の生活の中で、基本的な生活習慣を身に付けることができるよう支援している。食事のマナーや後片付け、部屋の片付け、洗濯など、担当職員が生活の中でその子どもに合った支援を行っている。金銭管理ができるよう、小遣い帳は小学生からつけるようにしている。炊飯器や電子レンジなど、電化製品の使い方もできるよう支援している。農業体験を行ったり、自衛隊の訓練を見せてもらったり、一流ホテルから招待を受けたりなど、地域との触れ合いも多く、その中で社会規範や常識を学んでいる。地域の子供会が少子化のため消滅してしまったが、町の陸上の専門の指導者が陸上の練習会を開催してくれたり、地域の行事に子どもたちが積極的に参加している。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気の中で食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	

【コメント】

食事作りは業者に委託している。子どもたちは食べたいものを職員に伝えてくるので、月1回開催する調理会議で、子どもたちの希望メニューや、残食の多かっメニューを確認している。子どもたちは、時には寮内でチャーハンを作ったり、ジャムを作ったりして楽しんでいる。

(3) 衣生活

① A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	
<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	

【コメント】

衣服は毎日清潔な物を着ている。衣類の整理は、小さい子どもは職員と一緒に、大きい子どもは自分で行っている。男子寮の部屋でも、洋服をきちんとたたんで整理している。衣服の購入は、近くに店がないため、職員が街に出掛けた時に購入することが多い。インターネットを活用して購入している女子もいる。七五三や入学式、卒業式の服は園で揃えているが、サイズが合わないときには購入し、その子どもに合ったものを着てもらっている。

(4) 住生活

① A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	
<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	
<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

歴史のある建物であるため、個室を使用しているのは女子寮の高校生の一部のみである。その他の部屋は、ベッドと箆笥を利用して個人の空間を作っている。建物の老朽化が進んでいることから、「安全・衛生」を重点として、令和4年度は大規模修繕工事を実施している。浴室も明るくなり、温泉気分も一段と高まっている。その他、大規模修繕により、床や壁、机、椅子などが新しくなり、明るい雰囲気を醸し出している。令和10年度に向けて、建て替えを検討している。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

子どもたちの健康状態は、担当の職員が把握している。子どもの顔色や食事の様子、行動などを日々、確認するようにしている。整形や眼科、精神科などに定期通院する子どもは、看護師が対応している。子どもたちの通院は多く、かなりの時間を費やしているが、精神科に勤務していた看護師でもあるため、職員がアドバイスを受ける機会も多い。服薬をしている子どもも多く、看護師が薬を管理している。年1回、職員は消防署の普通救命講習を受講している。また、看護師によるAED操作方法の指導も受けている。防火管理者から子どもたちにも、AEDの設置場所や機能について、避難訓練時に説明を行って周知している。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの年齢により、また、子どもの背景などにもより、性の知識を伝えることは非常に難しい問題であると捉えている。小さい子どもたちには看護師から「プライベートゾーン」の話などを行い、また少し大きい子どもたちには「生と性」について、年2回、看護師が話をしている。また、必要に応じて、児童相談所と連携し、保健師や心理士の来園を依頼して、子どもとの個人面接を行っている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもを安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

暴力や暴言、パニック、自傷、他害、破壊など、不適切な行動を起こす子どもは、現在いない。「遊び、スポーツ、学びを充実させる取り組み」を行い、職員と一緒に良く遊び、スポーツでエネルギーを発散させる取り組みを行っている。以前は職員への暴力などがあり、職員が疲弊してしまうことがあったが、人員配置など職員の負担の軽減に配慮している。子どもの辛い思いや、悲しい思いを支援をする職員が疲弊してしまわないよう、職員への配慮を行っている。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	
<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	
<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	○

【コメント】

子ども同士のいじめや暴力などが起こる前に、職員が複数体制で対応するようにしている。特別支援学校に通う子どもをよく理解して、他の子どもが普通に関わることができるよう支援している。遊びの中で、言い合いになったりすることはあるが、子ども同士の話を複数の職員が良く聴き、納得するまで話し合っている。自閉傾向のある子どもとの関わりでは、児童相談所のケースワーカーと連携を取りながら対応している。

(8) 心理的ケア

① A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	
<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

現在、心理士を募集しているところである。心理的ケアが必要と判断された子どもは、児童相談所の心理司が心理療法を行っている。遊具療法や箱庭療法などを行い、療法終了後は職員に報告があり、状況を記録に残している。園では心理士を募集しているが、園の立地条件からなかなか応募者がなく、難しい状況にある。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

① A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別の学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

公文式学習は継続して行っているが、コロナ禍のため、現在は分散して行っている。中学校3年の子どもは、高校受験に向けて、職員の指導で夕食後に勉強会を行っている。近くに学習塾がないため、町が主催する「土曜塾」を利用し、現在中学3年生が4人ほど参加している。大学の学生が学習ボランティアの団体を立ち上げ、今後定期的に学習ボランティアを行ってくれることになっている。学力の低い子どもには、できることから行える公文式学習で、その子どもに合った教材を提供している。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="radio"/>

【コメント】

中学3年生、高校3年生に対しては、普段の生活の中で、今後の進路について職員と話し合いを行っている。学費の問題や生活の問題、そのための資金について、話し合っている。子どもの進路の決定は、担当職員や寮リーダー、自立支援担当職員、園長を交え、本人の意思を確認して、本人が決めている。学費を確保するため、高校生はアルバイト代や小遣いを貯めて貯蓄している。また、奨学金の情報を受け、活用する子どももいる。就職する子どもも、計画的に生活している。就職してすぐ辞めてしまう子どもなど様々な子どもがいるが、職場への対応や、引っ越しの手伝いを職員が行い、卒園後の子どもたちをフォローしている。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

高校生は、近隣のホテルやコンビニエンスストアでアルバイトを行って、社会経験を積んでいる。アルバイトをしながら、今後の自立生活や学費のために計画的に貯蓄を行っている。自立支援担当職員は、アルバイト先と連携を取り、社会ルールをきちんと守っているかなど確認している。時には無断欠勤などがあり、謝りに行くこともある。特別支援学校では実習があり、その子どもに適した職場を体験している。実習に行き、卒園後に就職した例もある。地域のホテルや工場などが、子どもたちの受け入れを積極的に行ってくれている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

家庭支援専門相談員が窓口になり、保護者に対応している。保護者が疾病を抱えているケースも多く、面会に来園する保護者は、全体の3分の1以下である。面会があると、うれしいと思う子どもや、うれしいが怖いから会いたくない子どもなど、反応はさまざまである。保護者の会いたいという気持ちと、子どもの気持ちが同じ方向ではない場合もある。運動会や発表会などの学校行事は、保護者に電話で連絡して、見学に来てもらうようにしている。保護者と会った後、子どもの中には泣いてしまったり、怒りっぽくなったり、反応は様々だが、職員はいつもの落ち着いた生活に戻れるよう、子どもへの関わりをより一層深め、寄り添うようにしている。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	□家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	□面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	□児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

保護者の引き取りたいという思い、引き取った後の生活、子どもの思いなどを考慮し、家庭支援専門相談員と児童相談所のケースワーカーを中心に、家庭復帰が可能かどうかを慎重に進め、ケース会議で検討している。保護者には面会に来てもらい、買い物外出、家への外出、家への宿泊、園での子どもとの暮らし体験などの段階を経て、家庭引き取りにつなげている。その間、職員は子どもの心理状態や態度などを観察しながら、家庭での生活がうまくいくよう支援している。金銭面や通院の問題、家に戻ってからの相談など、困りごとを解決できるよう支援している。